



東日本大震災【被災地レポート】新入生へ

“冒険の旅”の始まりだ



中央大学法学部4年
白倉 隆之介

宮城県気仙沼市で被災した白倉隆之介さんは、

中央大学法学部4年で被災地を支援するボランティア活動を展開中だ。

被災地から学生の立場でレポートを続けている。

夢中になろう

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから始まる4年間の「大学生活」をどのように考えていますか。

「高校生活の延長みたいな感じかな?」「大学の4年間って何か長そうだなあ」などと思っていたら、その考えは捨ててください。

4年生になった今だから実感できたことですが、大学生活は本当にあっという間です。フィールドは、東京都内だけでなく日本全国、世界へ広がっています。私は1年生から2年生に上がる春休みに大震災に遭遇。2年生の夏から震災ボランティアを始めて、1年くらい活動したと思ったら、周りではもう就職活動が始まっていて、気が付くと4年生になっていました。

大学生活を充実したものにするのは、どうしたらいいか。私ならば、「夢中になれることに打ち込む」と答えます。中大には、資格試験合格を目指して勉学に励む学生から、オリンピックやインカレを目指して競技に打ち込む学生、語学力を磨くため長期の海外留学に行く学生まで多種多様な学生がいます。

彼ら彼女らを「すごいな」と思うことがあります。目指しているものが、私の手の届かない高いものだからということではなく、彼ら彼女らが自分なりの目標をしっかりと持って、生き生きと楽しそうに励んでいるからです。

実は、このような学生があなたの身近にたくさんいます。彼ら彼女らから出ているオーラを感じ、自分自身のパワーに変えていってほしいと思います。



面瀬中仮設の多くの方が住まわれていた気仙沼市尾崎地区の震災後1年の風景。かつて住宅地であったその地域は、何軒かの基礎を残すばかりで、所々にがれきが積み上げられていました。早い復興が待ち望まれています

ボランティアのススメ

もし、「大学には入ったけれど、やりたいことが見つからなくて…」という新入生がいたら、ボランティア活動を勧めます。高校時代にボランティア部などに入っていた人を除いては、大学で始める人がほとんどです。みんな一緒のスタートラインから成長していくことができます。

私もボランティアの「ボ」の字すら知りませんでした。ボランティアには勝ち負けがありませんし、優劣もありません。自分自身が活動にやりがいを感じ、相手の方から感謝の気持ちを伝えていただけたのなら、それが一番です。

教育ボランティア、障がい者支援ボランティア、環境保全ボランティアなど、「誰かの役に立ちたい」「お手伝いしたい」という思いの数だけ活動の場があり、そのフィールドは広く、可能性は無限大です。

どんなボランティアに取り組むかは皆さんの興味次第ですが、例えば、私が取り組んでいる被災地支援ボランティアでは、現地の方との交流が多いため、直接「いつもありがとうね」と声をかけていただくことがあります。

そのときは本当にうれしいです。普段ぶっきらぼうに見えるお父さんたちに言われると喜びもひとしおです。この、心の底からわき出てくる充実感というのは、日常生活ではなかなか得難いものがあります。

私たち大学生が行くだけで被災地の年配の方は、「孫が来たようでうれしい」と喜んでくれます。集会所に待機をしていると、子どもたちが初対面なのに「ねえ、だっこそして!肩車してよ!」と飛びついてきます。

なぜでしょうか、それは、被災地にはまだまだ私たちを必要としてくださる方が多くいるからです。

高校生では、できなかったことを大



気仙沼市面瀬地区で活動する団体「はまらいんや」の活動の様子。集会所内のお手伝いに加え、住民の皆さんと「お茶会」なども行い、交流を深めています



岩手県宮古市で活動する団体「はまぎくのつばみ」の活動の様子。地域の「宝」である子どもたちのかかわり合いを特に大切にしています



学に入学した今、やってみませんか。中大学内には多くの被災地支援学生団体があり、どの団体もとても熱い想いを持った先輩がいます。金銭面でのサポートなど大学側の支援体制も整ってきています。少しでも被災地支援ボランティアに関心のある新入生の方には、ぜひ自分から一歩を踏み出してほしいと思います。一緒に頑張りましょう!

失敗はつきもの

もう一つ伝えたいことがあります。ページトップの大見出しで、4年間の大学生活を「冒険の旅」と例えたことに気がつきましたか。

冒険というのは、自分が見たことがない世界に踏み込むことであり、成否が確かでないことを、あえてやってみる事です。正直に言うととても怖い事です。

私も当初は初対面で、まして自宅や家族を亡くされている被災者の方にど

んな言葉をかけたらいいのか、うまく会話できるのだろうか…と、とても怖くて緊張したことを覚えています。

被災地に赴いて間もないころ、被災者の方が触れてほしくない話をしてしまい、後からそれを知って、自分を責めたことがありました。

4年間は「冒険」の旅の途中なのだから、誰にでも失敗はある、初めからすべて上手くいくことなんて、ないのだと思います。活動中、18年前の阪神・淡路大震災の時からずっと至る所で被災地支援ボランティアを続けられている方が、「未だにボランティアの正解は見つからないし、学ぶことの方が多い」と話していました。

自分の年齢と同じ分、ボランティアをしている人でさえそう言うのですから、学生の私たちが分からないことばかりなのはある意味当然です。そのように思うことで、心がすうっと楽になって、「失敗しただって恥ずかしいことじゃないんだ」「ま

た頑張ろう」という気持ちが湧いてくるようになりました。

私自身、まだまだの身なので、もっと多くの経験を積んで自分を磨いていきたいと思っています。

たった今、「中央大学号」に乗船された新入生の皆さんも、失敗をおそれず、自分がまだ見たことのない世界に向かって船出をしてください。

舵取り次第でいかようにもなるのがこの船の面白さです。船の後方には先生がいますが、船長は皆さんです。少しだけ先に出帆した者として、皆さんの4年間の「冒険の旅」が充実したものになるよう心から応援しています。

白倉隆之介(しらくらりゅうのすけ)

宮城県気仙沼市生まれ。同市で東日本大震災に遭い、その後、在籍する中央大学で被災地支援学生団体「はまらいんや」を立ち上げ、友人たちと気仙沼市内の面瀬(おもせ)中学校仮設集会所を拠点にコミュニティ支援活動を展開。趣味は旅行とスポーツ観戦。楽天イーグルスとベガルタ仙台をこよなく愛する。県立仙台一高卒、中大法学部法律学科4年。